

# 地域資源を活用し地域に根付いた養鶏経営

(島根県：有限会社 旭養鶏舎)

## 取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
	○	○	○		消費者理解の醸成

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

### <取組主体について>

- 所在地：島根県大田市
- 代表者：代表取締役社長 竹下 靖洋
- 飼養羽数：総羽数(採卵鶏)約33万羽
- 関連施設：鶏舎、GPセンター、堆肥処理施設、加工施設・直売所
- 雇用者数：63名(R4.2時点)(パート含む)
- HP等：<https://asahiegg.co.jp/>



「島根のこめたまご」

### <取組について>

#### ○ 概要

- 飼料に島根産の飼料用米(玄米)と、ネッカリッチ(木酢酸粉末)、海藻、カキ化石粉末を与えた「島根のこめたまご」を生産。飼料用米は、自社の鶏糞を活用して生産。
- 鶏の糞は適切に堆肥化し、全体の約15%ほどはペレットマシンでペレット化して利用。
- 鶏糞を活用して地域特産物としてえごまの生産を推進し、その一部を飼料として活用。
- 生産農場内に加工施設・直売所を併設し、プリン、茶わんむし、玉子とうふなどを製造し販売(6次産業の取組)。
- 毎年、地域の小学生を対象に鶏の飼育から玉子パッキングまでの工程に係る教育活動を実施。

#### ○ 成果

- 飼料用米は、休耕田や荒廃農地で栽培することで、美しい田園風景が持続的に形成されます。また、飼料用米は鶏が食べ、鶏の糞は堆肥として田で使われ、循環型農業を形成し、国産の飼料を活用することで、自給率が向上。
- 鶏ふんをペレット化することで、鶏ふんの広域流通を可能となり、現在、県内全域で利用。
- 鶏糞の活用で特産物のえごまが約30haで栽培され、地域の活性化が図られている。

